

まいにち ぜんぶ たのしむ

地域を元気にするライフスタイル

玉木さんが社員と共有するキャッチフレーズの1つに「まいにち ぜんぶ たのしむ」があります。

この言葉は、周りの目線を気にしすぎて、自ら考えて行動することができない社員が増えていることに気づいた玉木さんの「1日1日を後悔しない、今日も楽しかった、明日も頑張ろう!」という生き方をしてほしいという思いが込められています。ここでは、「日々の暮らしを大切に、自ら考えて行動する」ことを大切にする玉木さんの活動を一部ご紹介します。

働く環境

玉木さんの職場「Shop&Lab」は、古い染色工場をリノベーションした製造・販売の拠点です。

この「Shop&Lab」では、機織りだけでなく、糸の原料となるコットンの栽培をはじめ、作品を仕上げるまでのほぼすべての工程を自社で手がけています。また、敷地内には、羊やヤギなどの動物を放し飼いにするなど、モノづくりを深めるための様々な環境づくりが行われています。



多様性のあるチームでモノづくりの可能性を広げる

玉木さんの職場では、玉木さんのモノづくりに対する思いに共感した様々な方が全国各地から集まってきます。

「良い作品、アイデアが生まれるためには、多様性のある人たちを集めて、チームを作ることが必要です」と考える玉木さん。ただ、一筋縄ではいかないのが、人間関係。チーム作りは試行錯誤の繰り返しだそうですが「一人ひとりが個性をだしつつも、お互いを認め共感しあうチームを目指しています」と個人が働きやすく、モノづくりの可能性が広げられるチーム作りに挑戦されています。

五感を大切に地球にやさしい活動

玉木さんの活動は、モノづくりにとどまらず、地球にやさしい活動にも取り組んでいます。「地球に良いことは、働く人たちのところを癒し、モノづくりのクオリティにも繋がっています」と話す玉木さん。活動する上で大切にしていることは、「五感」を使うことで、人間の本能を働かせることで気づくことがたくさんあるそうです。動物を放し飼いでいることも五感を使うことの一環だそうです。



ヒントを探る



tamaki niime が語る 勝山の可能性

日本のヘソと言われる兵庫県西脇市で、(有)玉木新雌で代表を務める玉木さん。

玉木さんが魂を込めて手がける播州織のショールは、経済産業省の「The・Wonder 500」にも選出されるなど、日本が誇るべき優れた地方産品として国内外で評価を受けています。

また、玉木さんの活躍は、「地域を元気にする」と西脇市でも認められる存在となっています。

玉木さんの活動や故郷である勝山市への思いから、まちを元気に明るくするヒントを探ります。

離れて気づいた 勝山のイメージは



自信をもって言える 『恵まれた地域』

玉木さんは、勝山市を離れ、様々な地域で生活してきたなかで「勝山の自然、特に空気や水は本当においしいです」と身に染みて感じているそうです。

また、恐竜博物館や越前大仏などがある勝山市を「人が集まりやすいことは恵まれていると思います」と観光施設が少ない西脇市で人を呼び込む苦労を経験してきた玉木さん。「自然と観光施設に恵まれた地域を皆さんが前向きにとらえ、どう活動するかで勝山の未来は明るくなると思います」と笑顔で話されていました。



有限会社 玉木新雌 代表

たまき にいめ
玉木 新雌 さん

勝山市芳野町出身。洋品店を営む実家の影響もあり、幼いころから服への興味を持つ。大阪の服飾専門学校を卒業後、繊維商社に就職。その後、ブランド「tamaki niime」を立ち上げ独立。自らが望む着心地が良いモノを探し求めていたところに、播州織と播州織職人と出会い、播州織の地場産地である西脇市へ移住。